第 62 回 世界遺産検定 マイスター試験
講評 および 学習方法

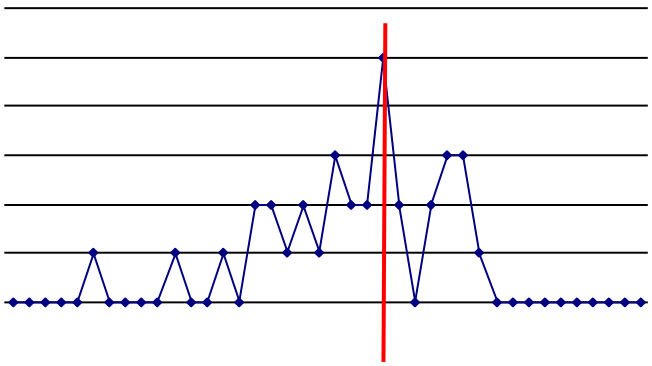
1. 実施概要	2. 認定点と分布	3. 問題	4. 総評	5. 各問の短評と学習法

1. 実施概要

検 定 日：2025 年 12 月 14 日（日）
検定会場：東京・名古屋・大阪
検定時間：120 分
解答形式：論述形式（記述）
申込人数：38 名
受検人数：34 名
認定者数：16 名（認定率 47.1%）

2. 認定点

認定点：12 点（20 点満点）
最高点：15 点
最低点：3 点



3. 問　題

1 次の語句を簡潔に説明しなさい。

1. 情報照会決議
2. 世界遺産条約締約国会議
3. バッファー・ゾーン

2 世界遺産条約について、次の語句をすべて使って、400 字以内で説明しなさい。なお、解答中の次の語句の使用箇所には下線を引きなさい。

義務と責任　　教育事業計画
世界遺産基金　　UNESCO 総会

3 世世界遺産登録の新たな手続きであるプレリミナリー・アセスメントの運用が始まり、日本からは「彦根城」が初めて評価を受けている。その後「彦根城」は国内での推薦が見送られているが、プレリミナリー・アセスメントを導入することにより世界遺産活動全体にどのような影響が考えられるか、プラスの面とマイナスの面の両方の観点から、1,200 字以内で論じなさい。

4. 総　評

今回は 1 の点数で得点差が大きかった。配点自体が高くないため一見すると影響は少ないようにも見えるが、2 との合計で判断されるため、合否ライン上にいる受検者では差が出たように感じる。2 は相変わらず使用ワードを羅列している人が少なくない。使用ワードは羅列するのではなく、それらを用いた説明を行う対策が必要である。3 はここのところ解答の自由度が高い問題が出されており、一部の受検者にはそれが難しく感じられたようであった。最高得点者は、プレリミナリー・アセスメントのプラスとマイナスをしっかり述べたうえで、人的・資金的リソースをどこに注力すべきであるかという点を独自の視点で論じており非常によい内容であった。自由度が高い場合は個人の視点がより重要になる。

ⓒ World Heritage Academy All rights reserved.

5. 各問の短評と学習法

1

短　評：それぞれの語句を約 50 文字以内で説明する問題。「情報照会決議」では、「決議」であり、決議を受けたら何ができるのかという、両点が必要であるなど、短い中で 2 つ程度のポイントが含まれていることが求められる。各語句の説明の中でどこが重要であるのか、優先順位の判断も準備段階で必要があるように感じられた。

学習法：このように少ない文字数で要約する場合、ポイントとなる語句をはずさないようにする。間違ってはいないが本質ではない点をいくら並べても説明としては不十分なので、学習の際には、**それぞれの語句の最重要ポイントがどこであるかを考えながら、キーワードを正しくつかむ**ことが重要である。

2

短　評：指定語句を用いて重要なキーワードを説明する問題。この問題は対策が行いやすく比較的書きやすいものではあるが、きっちりと文章を固めて準備を行ってしまうと、使用語句に柔軟に対応できず語句の羅列になってしまうと考えられる。4 つの使用語句もバラバラで考えずに結び付けて説明文を構成すると、まとめやすい。

学習法：書く前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。「世界遺産条約」を説明するのに必要なキーワードを書き出し、それを組み替えながら全体のプロットを考える。問題中の**使用指定語句は、どのような解答が求められているかのヒント**であるといえる。学習の段階では、重要語句のキーワードやポイントを抜き出しておくとよい。また「世界遺産条約」の意義や目的、採択の背景なども理解し、それを限られた文字数と指定語句の中に加えられるよう、自分なりのまとめなおしが必要である。そのためには、**文章ではなく語句で覚え**ておき、問題に合わせて語句を組み合わせるようにするのが重要である。また、指定文字数の 8 割を書かないと減点の対象となる。

3

短　評：前回に引き続き、解答の自由度が高い出題であったといえる。一方で自由度が高いが故に論旨の方向性が定まらない解答も少なからず見られた。「プレリミナリー・アセスメント」についてはどの受検者も十分に対策してきた様子が伺えたが、そのために「プレリミナリー・アセスメント」の説明で 3 分の 1 以上を埋める解答もあり、その点では内容が正しかったとしても高い点数がつかなかった。また「彦根城」はあくまで事例であり、「彦根城」の価値や今後の方向性について持論を述べる必要はなく、そうした解答も点数が高くつかなかった。総論でも書いたが、自由度が高い解答では、より自分の意見を論理的に述べることが重要になる。客観的な事実や事例を出しながら、自分の意見を論理的に述べる練習を行う必要があり、普段から「自分ならどう考えるか？」を意識しておくとよい。ここで論理的な構成ができていないと独りよがりな持論の展開になるため、注意が必要である。

学習法：1,200 字というかなり長い論述問題の場合は、書き始める前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。その時に、**序論・本論・結論のスタイル**にするのか、まず**結論を書いてから後で説明するスタイル**にするのか決め、全体を見ながら、それに沿うようにキーワードなどの箇条書きでプロットを作る。それに肉付けする形で、書き上げてゆく。世界遺産条約から大きく外れた出題はないので、ある程度共通して使える要素も準備しておくとよい。論述問題では**「正解」というものはない**。いかに自分の意見を論理的に述べられるかが高得点の鍵となる。当然、**自分の考えを述べる時には、思い込みではない正確な情報で根拠を示す**必要がある。文字数指定があるので、最低でもその 8 割は必ず書くようにする。

ⓒ World Heritage Academy All rights reserved.